

拓殖大学名誉博士称号贈呈式 「祝辞」

本日は、私達日本人が敬愛してやまない、今日の台湾を代表する実業家であり、また文化事業家でもあります許文龍先生に、拓殖大学を代表して、本学名誉博士号を贈呈できますことを、誠に光栄に存じます。これもひとえに台湾と本学拓殖大学の三つの世紀にわたって連なる深い縁由のなせるものと、深く感謝するところです。

拓殖大学は、明治 33 年、1900 年に台湾協会学校として創設されました。建学の目的に、台湾の開発と近代化のために献身する若い人材の養成を掲げた、台湾のための学校でした。初代校長は、第二代台湾総督を務めた桂太郎です。本学からは実際、多くの卒業生が台湾へ赴任し、学校で身につけた台湾語と商業知識等を活かして、台湾の人々と身近に接する地方行政や産業の現場で働きました。本学はその後、アジア各地に活動の領域を広げていきましたが、学校の経営と教育は、当時民政長官であった後藤新平第三代学長や、台湾の殖産、ことに製糖業の振興に尽した新渡戸稲造第二代学監といった、台湾ゆかりの人たちによって引き継がれました。今に至る国際大学としての伝統は、まさに台湾との様々な関わりの中で育まれたものです。

戦後 1980 年代、アジア諸国から多くの留学生が来日するようになりました。本学も多くの留学生を受入れましたが、その大半、八割以上は台湾からの留学生でした。大学院・学部・留学生別科を併せて約 300 人の台湾留学生在が同時に学んでいたこともあります。当時の留学生は、その後台湾の経済発展の担い手となり、今ちょうど働き盛りの年代になっています。この台湾に在住している卒業生同士の交流も盛んです。本日この贈呈式の場にも、何人かの学友が駆けつけて下さっています。

許文龍先生は、皆様周知のとおり、本学草創期の卒業生の多くが関わった日本統治時代の台湾経営を、公平に評価され、さまざまな場面で、若い世代に伝えておられます。わけても嘉南大圳の設計者・八田與一や、後藤、新渡戸等の銅像製作を通じて、台湾の開発に貢献した日本人を顕彰してこられたことは、日本の識者に感銘を与えると同時に、日台交流の輪を広げるきっかけにもなっています。

本学には、創立百周年を迎えた 2000 年に、後藤新平の胸像をご寄贈いただきました。そればかりでなく、許先生からは、後藤新平及び日本の台湾経営に関する独自の歴史観にもとづく貴重なお話もいただきました。その内容は、創立百周年記念として本学が刊行した『後藤新平 背骨のある国際人』に、解題として収録しています。また、許先生は本学における後藤、新渡戸研究の進展に期待を示され、研究にもご支援いただいています。

なお、この創立百周年の際、本学は、台湾の民主化の基礎を築かれた李登輝・元総統に名誉博士号を贈呈しております。今年は本学が創設されて 115 年目となりますが、台湾について言えば、100 周年の李登輝先生に続く、115 周年の許文龍先生への名誉博士贈呈となります。

来月、本学文京キャンパスに、後藤新平・新渡戸稲造記念講堂と命名した新講堂がオープンします。そこに、後藤新平像と、昨年、同じく許先生からご寄贈いただいた新渡戸稲造像を並べて設置しました。本学の先人である後藤、新渡戸の功績を偲ぶとともに、製作・寄贈された許先生の「台湾と日本はともに励まし合い、お互いに学び合って、代々に幸福な人生をもたらしたい」という次世代に向けたメッセージを伝えていく考えです。

今後とも拓殖大学並びに日本人への愛情と期待のこもった叱咤激励をお願い申し上げ、名誉博士号贈呈のご挨拶といたします。

許文龍先生の益々のご健勝とご活躍を心よりご祈念いたします。

2015 年 3 月 5 日

拓殖大学理事長
福田勝幸